

# 西山製麺 海外展開を加速

## 研修指導し「店育成」10年で店舗5倍に

1980年代からラーメンの輸出に取り組む西山製麺(札幌)が、この10年で海外事業を大きく成長させている。輸出の売上高は2014年に1億1300万円と初めて1億円を超え、24年は新型コロナウイルス禍の反動もあって1億2500万円にまで増加。25年は8億円で、26年は中東情勢の影響を受けながらも、同水準を維持できると見込む。背景には、現地のラーメン店を「育てる」戦略が実を結び、多店舗化やのれん分けもあつて販売量が伸びていることがある。遅れていたドイツの製麺工場の稼働も来秋に始まるめどが立ち、今後は海外展開をさらに加速させたい考えだ。

同社は1983年にラーメンの輸出を開始。香港やシンガポールでの出店の相談が増え始めた2000年ごろから、「おいしいラーメンの作り方を教え、専門店として育てることが重要」(西山隆司社長)との思いが強まり、02年に本社に指導用の厨房を整備。麺やタレを販売する際には原則的に研修を受けてもらうことにした。

出店を希望する国内外の研修生を受け入れ、スープや具材の選定など調理法を教え、必要に応じて現地に出張指導も行った。海外の研修生は175組に上る。「育てた」ラーメン店が現地でも人気を集め、同じ国の別の地域に支店を出したりのれ

### ドイツ工場 来秋稼働へ



ん分けするケースが増え、14年には14カ国73店舗だった販売先は現在、36カ国・地域の356店舗に増えた。世界的なラーメンブーム

ムや、訪日客の増加で現地でも「本物志向」が強まっていることも追い風になっている。イスラム教の戒律に従ったハラール対応の商品を開発し、中東にも進出。24年の輸出の売上高は、全体の2割超を占めるまでに成長した。

26年に計画していたドイツでの製麺工場建設は、用地選定に時間がかかったなどの理由で遅れていたが、今年3月に着工。27年10月の本格稼働を目指す。

現在、年間200万食の冷凍麺を欧州に輸出しているが、29年にはドイツ工場年間600万食の生麺製造を目標に掲げ、周辺国にも販路を広げる。西山社長は「欧州でもまだまだ需要は増える」とみていて、ここを重点的に強化したいと話している。(斉藤徹)

スペインの店に出張し、ラーメン作りを教える西山製麺の社員(左端) 4月(同社提供)